

県内の中高教諭らが研修 NIEセミナーに30人参加

元記者の中学校教諭らによるNIE実践例などが紹介されたセミナー——和歌山市



新聞で



学ぼう

県内の中学校、高校の教諭らが教育現場で新聞を活用するNIEの取り組みについて研修する「県中高NIEセミナー」が、和歌山市西浜の県立星林高校で開かれた。約30人が参加し、記者の取材体験談や中学校教諭に転じた元記者のNIEの実践例に聴き入った。

まず、共同通信社和歌山支局長の名波正晴氏が特派員時代の取材体験を基に、先の大戦後のブラジル・サンパウロ州で日本の敗戦を知らせようとした日系社会の指導者が同じ日系人に襲われ、2人が死亡した「サンパウロ事件」を紹介。「日清、日露戦争での勝利

を記憶する世代が敗戦を信じられず、当時は正式なニュース伝達機関がなかった中で『戦勝』とのデマが流れたことなどが事件の背景にあった」として、現在のフェイクニュースの問題にも通じる怖さを指摘した。

また、元神戸新聞記者で京都府向日市立寺戸中学校教諭の宮沢之祐氏は、社会科でのNIEの実践例を説明。「昨年の衆院選の争点の取り上げ方が新聞によって違うことや、向日市の予算案記事から市が注力する事業や借金の規模などを学ばせた」などと紹介した。